

漢文の学習

（標準編～応用編①）

はじめに

本教材は、古典における漢文の学習に関するものです。

高校一年生から三年生まで、それぞれの習熟度に応じて、また、必要な部分のみでも活用できます。

漢文訓読の基本的事項の確認から、内容読解、また、比較・分析による思考力を高めて表現力を磨く学びができるように構成しています。

演習①

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。
※ 設問の都合上、一部訓点を省略しています。

孟母断機

孟子之少也、既学而帰、孟母

方織。

問曰、「学何所至矣。」孟子

曰、「自若也。」

孟母以刀断其織。孟子懼而問

其故。孟母曰、「子之廢学、若

吾断斯織也。夫君子学以立

名、問則広知。是以居則安寧、

動則遠害。今而廢之、是不免

於廝役、而無以離於禍患也。

問一 傍線①を書き下し文にしなさい。

何以異於織績而食、中道廢而

不為。寧能衣其夫・子、而長

不_レ乏糧食哉。女則廢其所食、

男則墮於脩德、不為_レ窃盜、則

為_レ虜役矣。」

孟子懼、旦夕勤學不息。師事

子思、遂成天下之名儒。

(列女伝)

問二 傍線②を必要な送り仮名を補って書き下し文にしなさい。また、ここに含まれる句法名を答え、同じ句法が含まれる一文を書き出しなさい。

問三 傍線③を口語訳しなさい。

問四 傍線④の語句の意味を答えなさい。

問五 孟母が傍線Aのように尋ねた意図は何だと思えますか。それを含めてあなたに理由を含めて200字以内で書きなさい。

孟母断機

わか

まさ

孟子の少きとき、既に学びて歸るに、孟母方に織る。問ひて曰はく、「学何れに至る所ぞ。」と。孟子曰はく、「自若たり」と。

じじやく

たう

ちつ

そ

しよく

おそ

孟母刀を以て其の織を断つ。孟子懼れて其の故を問ふ。孟母曰はく、「子の学を廢するは、吾の斯の織

ぎと

し

そ

われ

こ

を断つが若きなり。夫れ君子は学びて以て名を立て、問ひて則ち知を広む。是を以て居れば則ち安寧にして、動けば則ち害に遠ざかる。今にして之を廢す

すなは

ここ

を

こ しえき

かかん

るは、是れ廝役を免れずして、以て禍患より離るる無きなり。何を以て織績して食するに、中道にして

な

しよくせむ

いづ

よ

廢して為さざるに異ならんや。寧くんぞ能く其の

ふ き

夫・子に衣せて、長く糧食に乏しからざらしめんや。

なんぢ

をさ

おこた

女則ち其の食する所を廢し、男則ち徳を脩むるを墮れば、窃盜を為さずんば、則ち虜役と為らん。」と。

たんせき

や

しし

孟子懼れて、旦夕学に勤めて息まず。子思に師事し、遂に天下の名儒と成れり。(列女伝)

つひ

孟母断機

孟子が若い頃、学びに区切りをつけて家に帰ったとき、彼の母親はちょうど機織りをしていた。

（母親が）尋ねた。「学問はどこまで進んだのか。」と。孟子は「相変わらず進んでおりません。」と答えた。

（すると）母親は刃物で織物を切ってしまった。孟子は驚いてその訳を尋ねた。母親は次のように言った。「あなたが学問を止めてしまうのは、私がこの織物を断つようなものです。そもそも君子というのは、学んで名を立て、問いただして知識を広めるものです。こうすることで、仕官せずに家にいるときは安らかで、仕官して活動するときには災難から遠ざかる。今、学問を止めてしまうと、召使いになることを免れず、災いから遠ざかることもありません。どうしても、布を織ったり糸を紡いだりして生計を立てるのに、途中で止めて完成させないことがあるでしょう。どうして、夫や子どもに服を着せ、いつまでも食料を乏しくさせないことができるでしょうか。女が生計を立てることを止め、男が徳を修めることを怠れば、盗みをしないのでなければ、召使いとなつてなつてしまいます。」

（それを聞くと）孟子は恐れ慎んで、朝も夜も学問に励み、休むことがなかった。子思先生に師事し、遂には天下に名高い儒者となつたのである。

問一 傍線①を書き下し文にしなさい。

- ・ 是れ廝役を免れずして、以て禍患より離るる無きなり。

問二 傍線②を書き下し文にしなさい。また、

ここに含まれる句法名を答え、同じ句法が含まれる一文を書き出しなさい。

- ・ 寧くんぞ能く其の夫・子に衣せて、長く糧食に乏しからざらしめんや。
- ・ 反語
- ・ 何以異於織績而食、中道廢而不為。

問三 傍線③を口語訳しなさい。

- ・ 盗みをしないのでなければ、虜役（召使い）となつてなつてしまふ。

問四 傍線④の語句の意味を答えなさい。

- ・ 朝も夜も（朝から晩まで）

問五 孟母が傍線Aのように尋ねた意図は何

だと思えますか。それを含めてあなたが孟子だったらどのようなに答えるか、理由を含めて二〇〇字以内で書きなさい。

（略）

演習②

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。
※ 設問の都合上、一部訓点を省略しています。

孟母三遷

古列女傳、鄒孟軻母、其舍近墓。

孟子少嬉遊、爲墓閒之事。孟母

曰、此非吾所以居處子也。乃去、

舍市傍。其嬉戲乃賈人衒賣之事。

又曰、此非吾所以居處子也。

復徙舍學官之旁。其嬉戲乃設俎

豆、揖讓進退。孟母曰、眞可以居

吾子矣。遂居。

問一 本文中の孟母の言葉に当たる部分をすべて書きだしなさい。

問二 傍線①③の漢字の読みを答えなさい。

問三 傍線②を必要な送り仮名を補って書き下し文にしなさい。

問四 孟母は三度住む場所を変えている。それぞれどのような場所であったか答えなさい。

問五 孟母の引つ越しの目的を踏まえ、これからの時代であなたが必要だと思うことを二〇〇字以内で書きなさい。

孟母三遷

古列女伝にいう、鄒すうの孟軻もうかの母、其の舎墓やどりに近し。

孟子少にして嬉遊きゆうするに、墓間ぼかんの事を爲なす。孟母曰

く、「此れ吾が子を居處きよしょする所以に非ざるなり。」

と。乃ち去りて、市の傍すなはに舎しやす。其の嬉戲きぎするや乃

ち賈人こじん衒賣げんばいの事なり。又曰く、「此れ吾が子を居處

する所以に非ざるなり。」と。復た徒りて學官まの旁うつ

に舎す。其の嬉戲するや乃ち俎豆そたうを設け、揖讓進退ゆうじやう

す。孟母曰く、「眞しんに以て吾が子を居くべし。」と。

遂つひに居る。

〔語釈〕

鄒すう 国名。孟子の出生地。今の山東省鄒県のあたり。

孟軻もうか 孟子。軻は名。字は子輿。

舎しや 家。

嬉遊きゆう 遊び戯れる。

居處きよしょ 住む所。

市いち 市場。

嬉戲きぎ 遊び戯れること。
賈人こじん 商人。
衒賣げんばい 売ること。
徒りたうり 移る。
學官がくくわん 学校。
俎豆そたう 祭礼に使う祭器。
揖讓いっじやう 敬礼。

孟母三遷

昔の『列女伝』に載っている話で、鄒の国の孟子の母は、孟子（が子供のころ）の住まいは墓地に近かった。孟子は幼かったので葬式ごっこをして遊んでいた。（それで）孟母は「ここは私の子を住まわせておくべき場所ではないわ」と言った。そして引越して、市場の側に住んだ。すると今度は孟子は商売人の（儲けようと口から出まかせを言う姿を）まねをして遊び始めた。その様子を見て孟母はまた、「ここも私の子を住まわせておくべき場所じゃないわ」と言っつて、再び引越し、学校のそばに住み始めた。すると孟子は、祭礼や礼儀作法のまね事をして遊び始めた。孟母はそれを見て「ああ、やっと私の子が住むべき場所を見つけた」と言い、とうとうそこを住まいと定めたそうだ。

問一 本文中の孟母の言葉に当たる部分をすべて書きだしなさい。

- ・ 此非吾所以居處子也。
- ・ 此非吾所以居處子也。
- ・ 眞可以居吾子矣。

問二 傍線①③の漢字の読みを答えなさい。

- ① ゆえん (ゆるん)
- ③ べ (べし)

問三 傍線②を必要な送り仮名を補って書き下し文にしなさい。

問四 此れ吾が子を居處する所以に非ざるなり。
 ・ 此れ吾が子を居處する所以に非ざるなり。
 孟母は三度住む場所を変えている。それぞれどのような場所であったか答えなさい。

- (一) か所目) ・ 墓地の側
- (二) か所目) ・ 市場の側
- (三) か所目) ・ 学校の側

問五 孟母の引っ越しの目的を踏まえ、これからの時代であなたが必要だと思うことを二〇〇字以内で書きなさい。

(略)

演習①②の文章からわかる孟母の行動力について、あなたが考えることを理由を含めて二〇〇字以内で述べなさい。

演習④

人生における選択において、あなたが大切だと考えることについて四〇〇字以内で述べなさい。

演習⑤

人が学ぶことについて、その機会の観点からあなたならどのようなように説明しますか。六〇字以内で述べなさい。

漢文の学習

（標準編～応用編）

おわりに

用編）以上で、漢文の学習（標準編～応
 度皆さん終れず。学年や学習到達
 項の確認、せ、漢文の訓読の基本的
 表現力を磨く。内容を比較・分析し、
 びに、つた。内容を比較・分析し、
 と解答を、交換し、意見交換、友人
 添削する。こと、望み、意見交換、
 相互

の書を読み、適切な判断が、自ら考
 し、切ない。判断が、自ら考
 め、いる。時代、このことを多く
 あ、り、す。古、典、を、紐、解、く、こ
 代、に、ま、す。古、典、を、紐、解、く、こ
 代、に、ま、す。古、典、を、紐、解、く、こ
 ん、で、く、だ、さ、い、の、光、を、自、ら、見、出、す、力、を、育